

東京外かく環状道路（関越～東名） 環境モニタリング調査（大気質、粉じん等）の結果について（お知らせ）

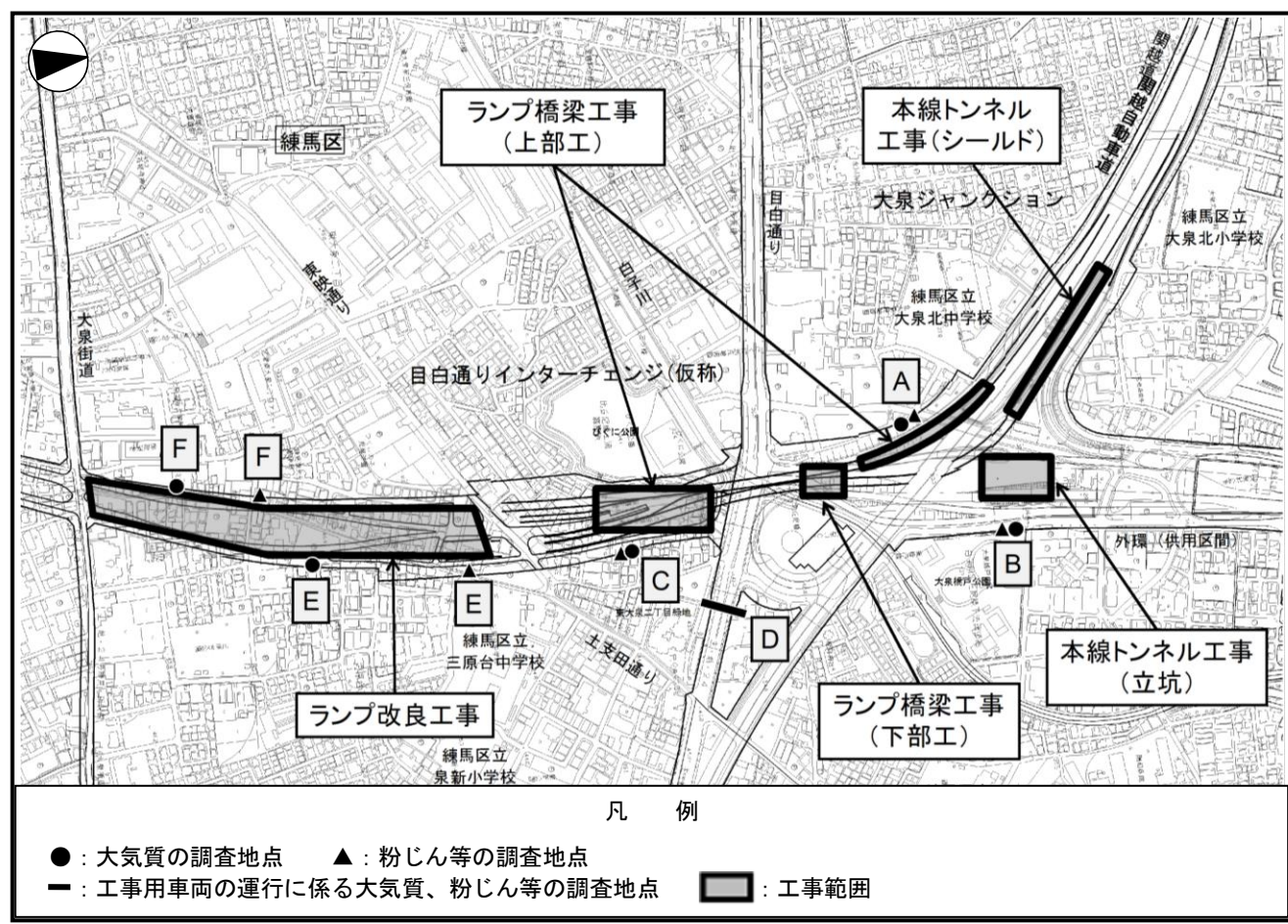
大泉 JCT・目白通り IC（仮称）周辺 大気質、粉じん等調査

夏季（令和4年6月～令和4年8月）に実施した大気質、粉じん等調査の結果についてお知らせします。

◆調査期間

- 夏季
- 大気質：令和4年6月7日（火）～6月13日（月）（7日間）
 令和4年6月17日（金）～6月23日（木）（7日間）
 令和4年6月27日（月）～7月3日（日）（7日間）
 令和4年8月3日（水）～8月9日（火）（7日間）
- 粉じん等：令和4年6月7日（火）～7月7日（木）（1ヶ月間）
 令和4年6月20日（月）～7月20日（水）（1ヶ月間）
 令和4年7月4日（月）～8月3日（水）（1ヶ月間）

◆調査位置図



◆問い合わせ

担当窓口：国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課
 電話番号：0120-34-1491（外環専用フリーダイヤル 平日9：15～18：00）

◆調査結果

- 建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】
- 二酸化窒素（NO₂）については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
 - 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

調査日	A			調査日	C		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)			NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値		1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
8月3日	0.017	0.036	0.129	6月17日	0.026	0.035	0.058
8月4日	0.020	0.015	0.030	6月18日	0.017	0.028	0.049
8月5日	0.018	0.012	0.018	6月19日	0.007	0.018	0.025
8月6日	0.014	0.016	0.031	6月20日	0.013	0.027	0.037
8月7日	0.009	0.020	0.029	6月21日	0.018	0.032	0.049
8月8日	0.005	0.018	0.025	6月22日	0.014	0.026	0.044
8月9日	0.006	0.022	0.027	6月23日	0.013	0.025	0.034
期間内平均	0.013	0.020	—	期間内平均	0.015	0.027	—

調査日	E		
	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
6月7日	0.009	0.006	0.013
6月8日	0.008	0.014	0.025
6月9日	0.010	0.011	0.018
6月10日	0.009	0.014	0.027
6月11日	0.010	0.011	0.019
6月12日	0.005	0.012	0.016
6月13日	0.007	0.009	0.016
期間内平均	0.008	0.011	—

※ 調査地点B、Fの周辺では、6月～8月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】

- 二酸化窒素（NO₂）については、環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質（SPM）については、1日平均値、1時間値ともに環境基準を下回る結果となっています。

調査日	D		
	NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	
	1日平均値	1日平均値	1時間値の最大値
6月27日	0.018	0.025	0.034
6月28日	0.018	0.028	0.047
6月29日	0.016	0.027	0.043
6月30日	0.021	0.033	0.045
7月1日	0.019	0.033	0.045
7月2日	0.012	0.029	0.046
7月3日	0.011	0.020	0.039
期間内平均	0.016	0.028	—

参考

◆環境基準
 二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
 （「二酸化窒素に係る環境基準について」（環境庁告示））
 浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
 （「大気の汚染に係る環境基準について」（環境庁告示））
 ※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目（若しくは高い方から数えて2%目）にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

○建設機械の稼働に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	A	C	E
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	2.9	2.4	3.4

※ 調査地点B、Fの周辺では、6月～8月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

○工事用車両の運行に係る粉じん等

- 粉じん等（降下ばいじん量）については、参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	D
降下ばいじん量 (t/km ² /月)	夏季	2.4

参考

◆参考値
 降下ばいじん量：20t/km²/月以下
 ※降下ばいじん量に環境基準はありません。環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした20t/km²/月が目安と考えられます。（「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」より引用）なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。
 *「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自第84号）